

中国における「池田思想」研究の現状

高橋 強

本年2004年は、創立者池田博士が1974年に第1次訪中をされて、ちょうど30年目に当る。ここ2、3年、中国（台湾を含む）の大学で池田思想を研究する気運が高まり、その研究機構はすでに5つを数える。ここでは主としてそれら研究機構を紹介する。

1. 北京大学池田大作研究会

同池田大作研究会は、2001年12月17日、北京大学日本研究センター内に設立された。32名の会員は、同大学内外で日本の政治、経済、思想、文化、歴史等領域の研究に従事する専門家で、その多くは曾て交換教員として創価大学で研究した経験を持ち、その上池田大作博士にも直接会った経験がある。同研究会名誉会長は、北京大学元校務委員会主任の王学珍教授で、会長は同大学日本研究センター副主任兼秘書長の賈蕙萱教授、副会長は同大学歴史学科・日本研究者の王新生教授である。

同研究会は、次のような設立趣旨に沿い、研究に取り組んでいる。即ち「池田大作博士は、世界的に著名な思想家、教育者、宗教研究者、社会活動家である。その思想は、人類社会の歴史的進展過程及びその本質に対し、高度な総括をし、一種独特な『人間学』理論を形成し、それらを工業化時代の社会発展に適合させ、多くの国家や異なった民族から注目を集めている。他方、池田博士は、その思想を現実生活に運用し、創価学会の迅速な発展を推進し、急激な変動期にあって社会の安定を維持する為に、積極的な働きをした。同時に、池田博士は、中国人民の“老朋友”で、曾て中日国交正常化の為に、永久不滅の貢献をなし、数十年一日の如く、中日両国人民の子々孫々に渡る友好事業を支持し発展させてきた中日友好事業の“井戸を掘った人”の一人である。以上の理由で、池田大作研究会は、中日友好の原則に沿って、池田博士及びその思想を研究することにより、人類社会が平和や幸福を追求する有効的な方途を、探求することが出来るばかりでなく、もっと重要なことは、この研究を通して、社会構造が急激に変化する過程において、社会的弱者に対し、如何に必要な保護及びその政治的権利の行使をし、社会全体の安定及び健康的な発展を保障するのかを探求することが出来るのである。そして古来から追求することを怠らなかつた大同世界を達成することが出来るのである。

同研究会の多くの会員は、以前には池田思想あるいは創価学会研究に専門的に従事したことがなく、本研究会の設立は、一方においては、“池田大作及び創価学会現象”の学術研究上の意義及び池田博士の中日友好事業の上での多大な貢献に由来する。」という趣旨である。

同研究会は設立以来、多くの活動を展開し、その形式は、池田博士に関する小規模な学術シンポジウム、参観活動、交流活動、著作研究会等である。またその主要な研究領域は、池田大作の宗教思想、池田大作の平和思想、創価学会の発展と日本経済の高度成長、中日友好と創価

学会、北京大学と創価大学の学術教育交流等の内容である。

- 一、池田大作の宗教思想。同研究会第1回全体会議で、同研究会会員で中国社会科学院世界宗教研究所研究員の何勁松博士が、池田博士の中道思想について報告をし、同中道思想の主要内容と由来、創価学会の発展過程及び両者の関係について、詳細に紹介した。
- 二、創価学会の発展。数回の活動の中で、何勁松博士、同大学日本研究センターの賈蕙萱教授、中国平和友好連絡会の高海寛氏、同大学政治学科の白智立助教授による報告会を開催し、池田思想と実践過程及び創価学会の発展状況を分析し紹介した。
- 三、池田博士と中日友好。前深・大学学長で『東方の智慧の光—池田大作研究論綱』の著者である蔡徳麟教授が、1968年池田博士が主張した「日中国交正常化に関する提言」について詳細に紹介した。曾て創価大学で研究に従事した教員による、創価大学と北京大学間の学術教育交流及び創価学会と中日友好事業に関する座談会を開催した。

現在までに、創価学会に関する図書100余冊を収集し、日本研究センター資料室内に池田大作研究資料庫を設け、同センターの「聖教新聞」と共に会員に閲覧の機会を提供している。現在研究論文集の出版を計画しており、已に15編の論文が寄せられている。その分野は、池田大作の宗教観、哲学観、歴史観、教育観、環境観等に及ぶ。例えば：

- (1) 劉徳有「池田大作の1968年提言から説き起こし」
- (2) 賈蕙萱「池田大作の教育思想」
「池田大作の人生論探求」
- (3) 馮昭奎「池田大作の地球診断試論」
- (4) 高海寛「池田大作の平和主義思想略論」
- (5) 蔡徳麟「池田大作の歴史観評論」
- (6) 董武「創価学会の戦後日本社会の政治発展におけるその地位と機能」
- (7) 王偉英「池田大作の人間学思想研究」
- (8) 劉光宇「池田大作の人生哲学試論」
- (9) 周季華「21世紀の日中関係—池田大作の中日国交回復提言35周年を記念して」

本年(2004年)秋、「東洋哲学研究所」と共同で「21世紀東洋思想の展望」と題し国際シンポジウムを開催する予定で、池田大作思想、哲学研究領域も包括している。更に中国における其の他の池田大作研究の機構、即ち湖南師範大学池田大作研究所、安徽大学池田大作研究会、中国文化大学池田大作研究センター(台湾)とも連携をとりながら、研究を推進する予定である。

なお何勁松研究員には以下の業績がある。

何勁松『創価学会の理念と実践』中国社会科学出版社 1995.12

何勁松『池田大作集』上海遠東出版 1997

2. 湖南師範大学池田大作研究所

同研究所は、2002年1月18日に正式に設立され、顧問は著名な倫理学者の唐凱麟教授、所

長は劉湘溶学長、副所長は冉毅教授で、総勢16名の博士号を持った研究員を擁し、図書資料室も設けている。

同研究所は、次のような設立趣旨に沿い、研究に取り組んでいる。即ち「強権主義者が導く民族差別、民族間の恨み憎しみ、武力侵略、環境破壊等反人類的、反文明的な茶番劇が歴史の舞台上益々熾烈になっている時に、人間性が物欲の横行する世の中で毎日に消滅している時に、また我々が依存している天体が重い負担に耐えかねている時に、更に人災が度重なって発生している時に、日本のある一人の智者は、世界平和と人類の持続可能な発展の為に、命を惜しまず奔走し訴え続けている。その人は即ち池田大作博士である。

池田博士（1928—）は、世界的に著名な宗教活動家、思想家であり、世界平和の探求者である。長きに渡り、宗教活動を基礎とし、文化・教育と世界平和の活動に尽力し、世界の恒久平和を勝ち取り、世界各国との文化・教育事業の交流と発展促進の為に、世界各地を駆け巡り、世界各国の指導者や著名な学者と対話を重ね、その思想と見識は世界的に深い影響をもたらし、一貫して文化と教育を通して、世界平和事業を推進してきた。池田博士は、知識を智慧に変え、その上それを有徳の知性的哲理に昇華させた先駆者である。池田博士には、国連平和賞等の榮譽以外に、已に115の名誉教授・博士が授与されている。池田博士の中国に対する友誼は大変深厚で、日米が敵視政策をとり、中国を孤立化させていた時、1968年9月8日、2万人の学生に向かってあの有名な日中国交正常化への「池田提言」をしている。

何故に一人の仏教者が、世の人にこれ程までに受け入れられ且つ尊敬されているのか。何故に池田博士の宗教哲学理念と平和思想は全世界に広まったのか。池田博士の仏教思想の哲学的内包とは何か。それが存在する伝播的文化土壌は何か。池田博士が一生を通して追求しているものは何か。これらは学者の中で、種々な思慮を起させている。池田博士の著作の中国語訳は益々増え、これらの翻訳書を通して、多くの学者は、池田博士が宗教哲学者として備えている智慧と思想の深遠性は、世界宗教思想史上ゆるがせに出来ない学術的地位を有するに至ったと、認識するようになった。世界が動揺し不安定で、精神の危機に直面している時に、池田博士の豊富な思想資源を研究し発掘し、人類の平和と発展及び未来に向かっての鑑とすることは、極めて現実的意義があり、未来的意義を失うものではない。」という趣旨である。

同研究所は、2003年10月に『池田思想研究論文集』（18編の論文を収録）を発刊した。中国及び世界でも池田思想研究の最初の論文集である。同論文集は、中国の学者が各分野から池田思想に対し系統的に研究した最初のもので、その哲人の智慧は重要な価値があると深く理解させるものとなっている。池田博士の生涯と創価学会の淵源について詳細に紹介し、更に池田思想研究の代表的論文を多数収録している。執筆者は厳格な学問研究の態度で、学術的な視点で、池田博士の新普遍主義、人道主義、環境保護、自然観、教育思想の倫理的含意と哲学的内包を詳細に評論し、中国の学者が池田思想を研究する独特の見解を提示している。触れられている多くの内容は、中国では初めての研究成果である。

執筆者は、次のような共通認識を持つに至ったと感想を述べている。「即ち池田博士は、生命の尊厳を内的根拠とし、民衆を以て人道主義主体を構築する普遍的倫理となし、その帰結点と

して、“人間革命”を根本の方途とする人格主義或は宗教主義的人道主義の特徴を具備している。この認識こそが池田思想の精神的本質である。また池田博士の人道主義は、健康的で合理的な人道主義を発展させる事を、未来社会が平和と正義を実現させる為の重要な条件と見なすことによつて、博士の現実社会における非人道状況への深い憂慮と関心を表現し、その人道主義思想の現実的意義を提示している。更に池田博士の環境倫理思想はヒューマンイズムの視点から環境問題を探求し、国家中心主義を乗り越え、且つ人間の利益と幸福を実現することに立脚し、人間の内在的自覚を通して人間と自然の関係を改善することを強調している。」と。

同論文集には、池田博士の“詩心説”も収録されており、人類の真善美に対する恒久なる追求も強調している。更に牧口常三郎（創価学会初代会長）が人生地理学を講義していた弘文学院と、湖南出身の留日学生との関係の歴史的文献も貴重な資料である。同研究所は2年後に2冊の研究著書を出版する予定である。

同論文集の内容は以下の通りである。

- (1) 「池田大作の新普遍主義的倫理」
- (2) 「池田大作の人道主義思想探求」
- (3) 「池田大作の環境保護思想論」
- (4) 「池田大作の信仰への路」
- (5) 「池田大作の自然観」
- (6) 「池田大作の教育思想探求」
- (7) 「池田大作の忠実観」
- (8) 「池田大作の詩人説略論」
- (9) 「トインビーと池田大作の対話録『21世紀への対話』解説」
- (10) 「湖南留日学生と宏文学院」
- (11) 「創価教育の源流—牧口常三郎」
- (12) 「創価学会及び歴代会長」
- (13) 「環境問題と仏教」
- (14) 「牧口とカント」
- (15) 「池田SGI会長の地球環境サミットへの提言」
- (16) 「日本に根ざした『法華経』及びその影響」

なお同研究所の所長、副所長には以下の業績がある。

- 劉湘溶「池田大作の生態倫理思想」世界宗教研究 2001. 3
- 冉毅『『人間革命—池田大作の『人間学』理論の構築』(博士論文) 1999
- 冉毅「池田大作の中道思想」世界宗教研究 2001. 3
- 冉毅「池田大作の『色心不二』的生命本質論の発展」師大社科学報 2001. 5
- 冉毅「池田大作の新人道主義」日本学 2001. 6
- 冉毅「池田大作の価値創造的幸福論」倫理学研究 2002. 3
- 冉毅「池田大作の科学技術倫理」道徳と文明 2002. 5

3. 安徽大学池田大作研究会

同研究会は、2003年3月6日に設立された。2002年6月、深・大学前学長、安徽大学前副学長の蔡徳麟教授が、「池田大作の東洋人道主義思想」と題し、学術報告をし、特に哲学科の教員と学生の中に大きな反響を呼んだ。そのことが大きな切っ掛けとなり、同大学哲学科内に池田大作研究会が設立された。

同研究会会長は同大学哲学科学科長の李霞教授、副会長は同副学科長の王国良教授、顧問は蔡徳麟教授で、其の他2名の中国哲学及び宗教学専攻の教授から構成されている。

同研究会は、中日学術文化交流を更に展開し、池田博士の進歩的思想理念を研究し紹介することを目指している。現在の研究課題は：

- 一、池田大作の人道主義思想研究
 - 二、池田大作の宗教思想研究
- である。

4. 蘇州大学図書館「池田大作著作専用書架」

同大学代表団と本学創立者池田博士との会見、及び本学との交流の過程で、同大学図書館で創価教育学創始者の牧口常三郎著『人生地理学』中国語版（1907年『最新人生地理学』）が発見されるなど、学術教育交流が発展していった。図書資料の交換を進めていった結果、池田博士の著作も100余冊を数えるに至り、2003年新図書館落成に伴い、同図書館内に「池田大作著作専用書架」が設けられた。

設置に先立ち次のような認識、即ち「池田博士の教育思想は中国学术界において、広く深い影響を持ち、博士の一連の著作、例えばイギリスの歴史学者トインビー博士との対談『21世紀への対話』は、80年代半ば中国では大変に好評を博した。池田博士は、著名な文化人、教育者、桂冠詩人として、世紀を越えて世界平和と東西文化の交流と対話の為に卓越した貢献をし、また極めて高い学術的名声を得ている。」に立ち、参考資料として提供している。

なお同大学発行「蘇州大学学报」（哲学社会学版）2002年第3期には、

- (1) 徳光「池田大作の中道思想と未来観」
- (2) 李雲芳 許慶豫「池田大作の教育観論述」

といった研究論文が掲載されている。

5. 中国文化大学池田大作研究センター（台湾）

同研究センターは、2003年9月に設立された。その設立趣旨として次のように述べている。即ち「創価大学創立者の池田大作博士は、現代世界の大思想家の一人である。池田博士は、世界的に著名な歴史学者トインビー、前ソ連大統領ゴルバチョフ、元アメリカ国務長官でノーベル平和賞受賞者キッシンジャー等と、人生、文化、道徳、民主、教育、政治、芸術、平和等の問題について、深く有意義な対話をし、その対談集を出版するなどし、世界から敬服し尊敬されている。池田博士は、学术界、宗教界、教育界や思想界においての非凡な成果と貢献により、

140幾つの大学から名誉博士・教授が、また「国連平和賞」や「国連平和貢献賞」も授与されている。更にハーバード大学等世界の10幾つの最高学府から要請を受け、講演を行っている。池田博士の世界的な崇高な地位と貢献に鑑みて、その思想と行動を系統的に研究することは極めて有意義で、そうすることにより人類の共通の財産とし、世界平和を促進することが出来るのである。」と。

同研究センターのセンター長には前学長の林彩梅教授が就任し、今後の活動内容は主として以下の5点である。

- 一、池田博士の書籍と資料を収集し文庫の設置
- 二、池田博士及び関連の著作を翻訳し出版
- 三、シンポジウムや講座等の学術活動
- 四、池田博士の思想と行動の研究
- 五、池田思想研究を推進する其の他研究機関との交流